

帯広市男女共同参画情報誌

カスタネット

Vol.36 2018.9

第16回 ひとひと 女と男の一行詩・最優秀作品 / 子どもができたならやめちゃうの? そんな社会をやめちゃうおう

特集

女性が

変える、

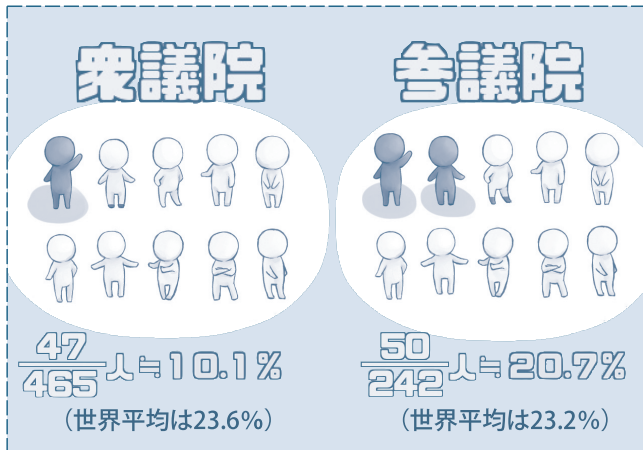
日本の未来

- 男女共同参画セミナーレポート
- 起業女子にインタビュー
「とかち・イノベーション・プログラム2018」参加者から女性たちへ
- 活躍する女性たち ~輝く女性へのインタビュー~
- 男女共同参画推進員だより

「カスタネット」とは…2枚の丸い木が合わさり音が出る楽器から、女性と男性が共に歩むイメージを表現したものです。

平成30年度男女共同参画セミナー 「女性が変える、日本の未来」

日本の女性国会議員の割合（H29.12.1現在）



内閣府男女共同参画局「女性の政治参画マップ2018」より作成

▽2018年7月7日(土)とかちプラザレインボーホールにて、駒澤大学法学部教授の大山礼子さんに、女性の政治参加の重要性についてご講演いただきました。

「女性議員が少ないと

何が問題なのか？」

男女比が偏ると政策決定が歪んでしまう恐れがあります。

朝日新聞の調査によると、議員の考え方には男女差があり、例えばシングルマザーや共働きで子どもを持たない生活スタイルなど、家族の形は多様で良いという考えや、選択的夫婦別姓に賛成という意見は女性議員に多く見られ、これらのテーマに関して男性議員は保守的な考えを持っている人が多いようです。

「当事者が政策決定に

関わることで変わる」

参議院の「共生社会に関する調査会」は、2000年に「女性に対する暴力に関するプロジェクトチーム」(メンバー6名は全員女性議員)を設置。翌年には「配偶者からの暴力(DV)の防止及び被害者の保護に関する法律案」を提出し、参議院、衆議院ともに全会一致で可決・成立しました。女性の被害者が多いDVについて、超党派女性議員が法の整備に立ち上がり、女性たちを守るための第一歩を踏み出したのです。

「女性議員を増やすために

どうしたら良いのか」

2018年5月「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が施行されました。これは衆参両議院及び地方議会の議員の選挙において、男女の候補者の数ができる限り均等となることを目指すための努力義務を掲げたものであり、今後さらに政党を動かしていくためには、選挙制度の改革などが重要となります。

フランスの例では、2000年以降「パリテ(男女同数)」の実現に向けて、次々に法整備を行いました。県議会では、これまでの一人区を二人区に改め、男女ペアでの

立候補を義務付けました。

日本で選挙制度を工夫する一例として、男女を交互に候補者名簿に登載する『名簿式比例代表制』や、複数の候補者を選択できる『制限連記制』などが考えられます。複数の候補者を選択できるようになると、有権者は2番目、3番目の選択として、女性や若者などの候補者に投票する可能性が高まります。

また、国会議員や地方議会議員選挙への投票率が低下している大きな原因として、「議員を自分たちの代表と思えない」「自分で政治は変えられない」と思う意識があるのではないだろうか。社会を映し出す鏡のように、性別をはじめ、色々な立場にある人が議員になることで、私達ひとりひとりの声が、より政治に届きやすくなると考えます。



おお やま れい こ
講師 大山 礼子 さん

一橋大学大学院法学研究科修士課程修了。博士(法学)
国立国会図書館勤務、聖学院大学助教授、同教授を経て
2003年より現職。衆議院選挙区画定審議会委員

起業女子に

インタビュー

とかちイノベーションプログラム
(以下TIP)に携わる起業女子として、山川知恵さん(2期生)、3期からは推進チームメンバー)、浦木明子さん(2・3期生)にお話をうかがいました。



山川知恵さん

《企画WORKS代表》

自身が代表を務める会社以外にも、数社の取締役、さらべつ熱中小学校他の建築デザイン、十勝ファーマーズマーケットの企画運営にも携わる。

「そもそもTIPとは？」

TIPは帯広信用金庫主催で、協力団体として野村総合研究所のほか、帯広市長も応援している「十勝発の新事業をたくさん創造しよう」という事業です。「地域の経営者、起業予定の方」を公募し、全国から集まるユニークな経営者とマッチングさせることで新しい事業を生み出します。2015年からスタートし今年で4期目になりますが、毎年100

人程度の方が参加する事業となっています。現状は、男性参加者の比率が高いので、女性参加者を増やしていくためのアクションを検討しています。

「2期生として参加したきっかけ、3期目の推進チームメンバーになった心の経緯とは？」

2期目には観光関連の仲間と「かちの魅力を発信したい」と観光事業を立ち上げ、滞在型のツアーを提供する企業を作りました。

3期目に推進チームに回ったのは、主催者側からのお誘いもありました。参加者からみて、「ここにいて楽しいと思える場づくり」を提案したいと思ったからです。今後も継続予定のTIPを支えていけたらと考えています。

浦木明子さん



《食の寺子屋
直歩塾代表》

熱心に食の事を伝えながらも、ダジャレなど面白いことを常に考えている浦木さんのファンは道内外に。TIPのプレゼンでは、ラップを披露し、会場を沸かせた。

「伝統食を若い世代へ…浦木さんの活動(TIP応募内容)とは？」

「食の寺子屋・直歩塾」として応募しました。伝統食を現代風にアレンジして、若い世代に伝えていきます。一例としてぬか漬けです。昔ながらの方法だと、朝晩かきませるの旅行にすら行けないほど手のかかるものでしたが、冷蔵庫に入るサイズのホロー容器などを使い、現代の生活に取り入れやすくするような方法で伝えていきます。

また、企業研修としての「料理教室」も好評を得ています。エプロンをつけて部長も新人も一緒に料理を作ると、フラットな関係になりコミュニケーション構築に役立ちます。料理×仕事の研修は面白いと感じています。

「女性たちよ、

私たちに続け！」

浦木さん 最初は横文字ばかりが続くので困りましたが、素直に「わからないな」「教えてほしいな」というと、親切に教えてもらえました。質問しながらのコミュニケーションでうまくいく。こういう「わからないな」を上手く使えるのは

女性のほうが得意じゃないかなと思います。場違いかな…なんて思わないで飛び込んでみて！

山川さん 主婦の人は尻込みしますがですが、パートナーの収入もあればスモールスタートが切りやすいと思います。「こんな事しか出来ないの」が、実は、他の経営者には待ち望んでいたスキルかもしれません。ちょっとした一歩でもいいから、一緒にやってみましょう！今年度は締め切りでしたが、来年度も参加者を募集する予定なので、注目して下さい。

とかち・イノベーション・プログラム



起業など
とかちに新しい
事業の種が…！

← 事業アイデア案
発表の様子

＊輝く女性の活動を紹介します

活躍する女性たち

（WEWとかち 代表）

若菜 順さん

『子どもや若者の居場所を作りたい』

私は、大学卒業後就職し、その後結婚を機に北海道に移り住みました。周りに親戚や知人はなく、初めての北海道での暮らしで子育ては大変でした。子どもの成長を待って再び働き始め、管外への転勤もありましたが、家族の理解と協力を得ながら、大学院での学びも深めることができました。こうして様々な経験をし、多くの仲間と出会う中で、『子どもや若者の居場所を作りたい』という夢が芽生えたのです。

10年前、「場所なし！金なし！やる気あり！」と自己紹介しながらWEWとかちを立ち上げ、若者の相談支援をスタートさせ、その後、不登校の子どもをもつ保護者支援や、子どもの学習支援活動を始めました。

あるとき、福祉財団の援助を受け、新たな活動の一環として『おびひろ子ども食堂』を開設することになり、このことが紙面に掲載されたことで、大勢のボランティアの方から、食器類や食材等の寄付をいただき、大いに励まされてのスタートとなりました。その後もたくさんの方々や団体・地

域の方々に応援していただき、少しずつ歩みを進めて今日に至っています。

近年、子どもや若者にとって、社会の中で希望を見いだすことは、さらに難しい状況になってきていると感じます。

その様な状況の中で、この『子ども食堂』は、貧困に苦しむ子どもたちへ食事を提供するだけではなく、学校や家庭以外の第3の居場所として、大人との信頼関係を結べる場所になってきています。子どもを真ん中にして色々な世代が交流することで、地域の横のつながりを広げ、「子どもが子どもらしく過ごせる環境」を地域の皆さんと協力してつくっていきたくと考えています。

子ども食堂のようす...



毎回スタッフ10人前後で30食を準備。南商業高等学校クッキング部のみなさんがお手伝いしてくださることも！



↑ 写真中央 エプロン姿の女性が若菜さん

子ども食堂を通して子どもたち同士が心を通わせていく様は、本当に心嬉しいものです。

『おびひろ子ども食堂』
帯広市西21条南3丁目15-26
毎月第3土曜日 午後0時半～1時半
高校生以下無料（保護者300円）

推進員 だより



＊帯広市男女共同参画推進員の活動の様子を紹介します

↑ 子育てしながら活動に参加しています

男女共同参画推進員は、帯広市とともに男女共同参画を広げていく市民ボランティアグループで、情報誌「カスターネット」の企画編集や朗読劇の出前講座などを行っています。

私は、小学生と幼稚園児の子どもを育てながら、月に1～2回の推進員としての活動もしています。

私が成人して勤め始めた頃と比べると、男女共同参画が進んできていると感じますが、「男は、女はこうあるべき」という考えが根深く残っている分野もありますよね。子どもたちの未来のためにも母視点の「人同士の共同」をしていけたらと思います。

現役ママ&パパ世代の推進員が増えたら嬉しいですね。まずは見学からいらしてくださいね！

（文：品田裕子推進員）

ご意見・ご感想をお待ちしています！

〒080-8670

帯広市西5条南7丁目 帯広市役所 男女共同参画推進課

電話：0155-65-4134 F A X：0155-23-0171

電子メール danjyo@city.obihiro.hokkaido.jp

平成30年9月発行

●発行：帯広市

●企画編集：帯広市男女共同参画推進員

池添 博彦・池田 淳一・伊藤 容子・

遠藤 妙子・川尻れえ子・田沼 誠子・

沼田 秀実・品田 裕子